2026 年 9 月 18 日

各　位

会社名　ＳＢＩグローバルアセットマネジメント株式会社
（コード番号　4765）
（上場取引所　東京証券取引所　プライム市場）
代表者　代表取締役社長　朝倉 智也
開示責任者　常務執行役員 CFO　小笠原　靖行

世代別 2,000 人のリアル「私たちのお金白書」第 1 弾 公開のお知らせ

当社子会社のレオス・キャピタルワークス株式会社（以下「レオス・キャピタルワークス」）は、全国の 18～79 歳男女を対象にした「資産形成に関する消費者実態調査」の結果をもとに、家族とお金の実態を伝えるシリーズ、世代別 2,000 人のリアル「私たちのお金白書」の第 1 弾を発表いたしましたのでお知らせいたします。第 1 弾のテーマは、敬老の日を前に考えたい「親子のお金の会話」です。



■「私たちのお金白書」調査の背景

日本では「お金の話はタブー」とされてきた文化的背景もあり、家族間・夫婦間でのお金に関する会話は避けられがちです。一方で、インフレが続く近年、老後資金・相続・教育資金といったテーマへの不安は年々高まりを見せており、「話したいのに話せない」という状況が多くの世帯で生じています。

レオス・キャピタルワークスは、日々多くのお客様の資産形成に携わる中で、「不安の大きさ」よりも「安心をつくる行動」に注目することが重要だと考えてきました。資産の多寡よりも、家族やパートナーなど、近しい人と話し、見通しを持つことが安心につながるという実態をデータで示したいという思いが、本調査の出発点です。

今回の調査では全国 18～79 歳の約 2,000 名にご協力いただき、相続・投資・夫婦のお金共有という 3 つのテーマを軸に、「安心をつくる行動」を取っている人とそうでない人の実態を比較・分析しました。「お金」について考えることは、どう生きたいのか、ご自身の人生と向きあうことでもあります。本白書が、家族との「最初のひとこと」を後押しするきっかけとなれば幸いです。

■調査概要

・調査主体：レオス・キャピタルワークス株式会社（調査実施機関：株式会社インテージ）

・調査方法：インターネット調査

・調査対象：全国の 18～79 歳男女

・調査期間：

スクリーニング調査：2026 年 4 月 28 日（火）～2026 年 5 月 1 日（金）

本調査①：2026 年 5 月 8 日（金）～2026 年 5 月 9 日（土）

本調査②：2026 年 5 月 8 日（金）～2026 年 5 月 12 日（火）

・調査対象人数：スクリーニング：5,309 人　本調査①：2,122 人　本調査②：2,008 人にて分析

※スクリーニング調査は 20,777 人を回収しておりますが、そのうち日本の性年代構成比に合わせて抽出した 5,309 人を分析対象としております

・調査設問数：スクリーニング：16 問　本調査①：56 問　本調査②：69 問

※本調査聴取項目が多くあり、本調査はテーマ別に①夫婦・パートナー間のお金の意識、生活資金・老後資金に対する考え、子育て終了世代の教育資金の振り返り　②老後資金の見通しと不安、家族間の相続に対する考えと準備状況、現役子育て世代の教育資金の実態などに分けて聴取

【クレジット表記のお願い】

本資料の調査データを転載いただく際には、出典として、下記を表記くださいますようお願い申し上げます。

世代別 2,000 人のリアル「私たちのお金白書」（レオス・キャピタルワークス作成）

■調査結果サマリー

1. 相続について**「事前に話しておきたい」**は、**受け取る側 72.8%・渡す側 71.4%**。実際に**具体的に話せているのは 1 割未満**
2. 話せない理由の 1 位は、受け取る側**「どう切り出せばよいか分からない」**（27.2%）、渡す側**「何を話せばいいか分からない」**（13.8%）―親も子も、相手が切り出すのを待つ**「言い出しっぺ待ち相続」**の状態
3. 相続の心配の上位は**「親の財産の全体像が分からない」**（26.1%）**「どこに資産があるか把握できていない」**（21.7%）。不安の正体は金額ではなく**「実家の資産のありか」**
4. **親と話し始めた人の財産把握率は 58.3%**と、全体（25.2%）の **2.3 倍。会話は最初の一歩にして最大の一歩**
5. **相続への心配が老後不安に「影響している」と回答した割合は 41.5%。**「話しておきたいが、まだできていない」層では 57.7%に達し、**相続の会話を始めることが、自分自身の将来の安心にもつながる**
6. **相続について専門家に相談したい人は 6～7 割**にのぼるが、そのうち**約 4 割が「どの専門家に何を相談すべきか分からない」**と回答。意欲はあっても、相談先が見えていない実態が明らかに

詳細はレオス・キャピタルワークス株式会社が発表したプレスリリースをご参照ください。

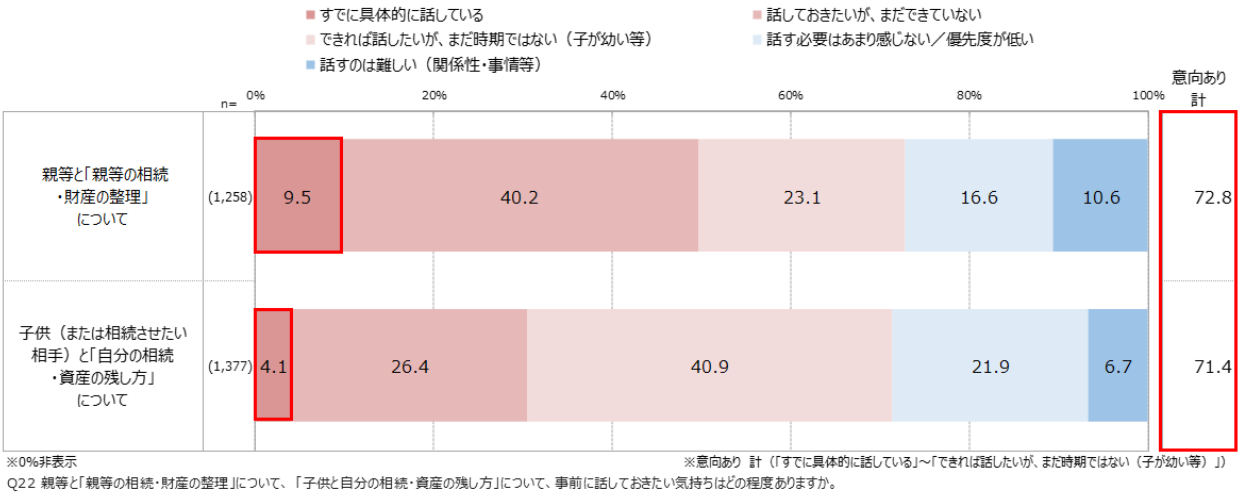
https://www.rheos.jp/information/news/2026/money-hakusho_vol1.html

■調査結果詳細

1. 相続は「無関心なテーマ」ではなく「先送りされているテーマ」だった

今後、相続の受け取りまたは承継が発生する予定の方に調査したところ、相続を事前に話しておきたい気持ちは、親の財産を受け継ぐ側で 72.8%、自分の資産を残す側で 71.4%と、世代の両側で 7 割を超えました。一方「すでに具体的に話している」は受け取る側で 9.5%・渡す側で 4.1%にとどまります。日本の親子は、相続に無関心なのではなく、必要だと感じながら、きっかけがないまま先送りしていることが明らかになりました。

Q. 親等と「親等の相続・財産の整理」について、子供（または相続させたい相手）と「自分の相続・資産の残し方」について、事前に話しておきたい気持ちはどの程度ありますか。



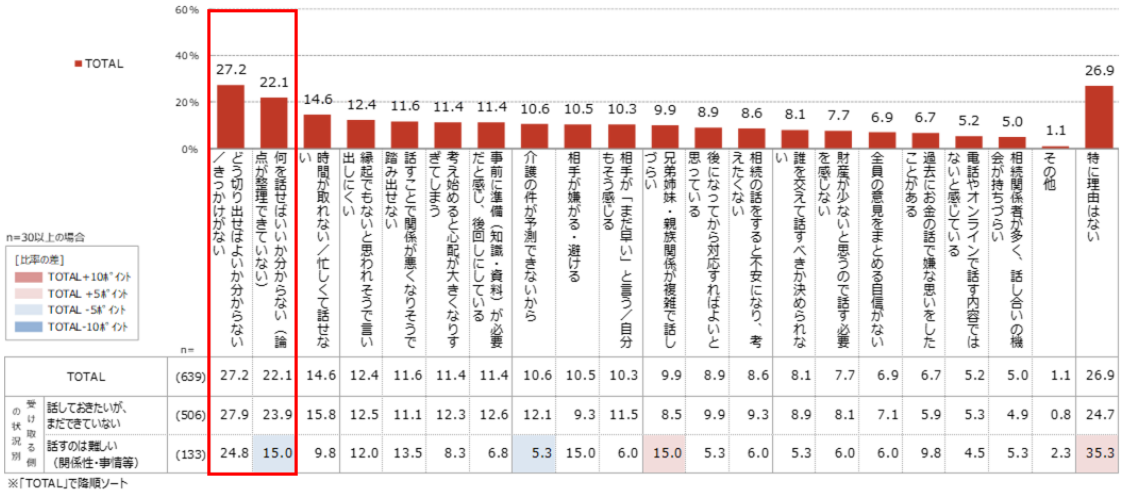
※0%非表示
※意向あり 計（「すでに具体的に話している」~「できれば話したいが、まだ時期ではない（子が幼い等）」）
Q22 親等と「親等の相続・財産の整理」について、「子供と自分の相続・資産の残し方」について、事前に話しておきたい気持ちはどの程度ありますか。

各設問の詳細データは P11 末尾に記載されております、全データ PDF を合わせてご参照ください。

2. 親も子も「言い出しっぺ待ち」

今後、相続の受け取りまたは承継が発生する予定の方のうち、まだ具体的に話が出来ていない方に対して、その理由をたずねると、受け取る側の１位は「どう切り出せばよいか分からない／きっかけがない」（27.2%）でした。

Q.【受け取る側】親等と「親等の相続・財産の整理」について、事前に話せていない理由としてあてはまるものをすべてお選びください。



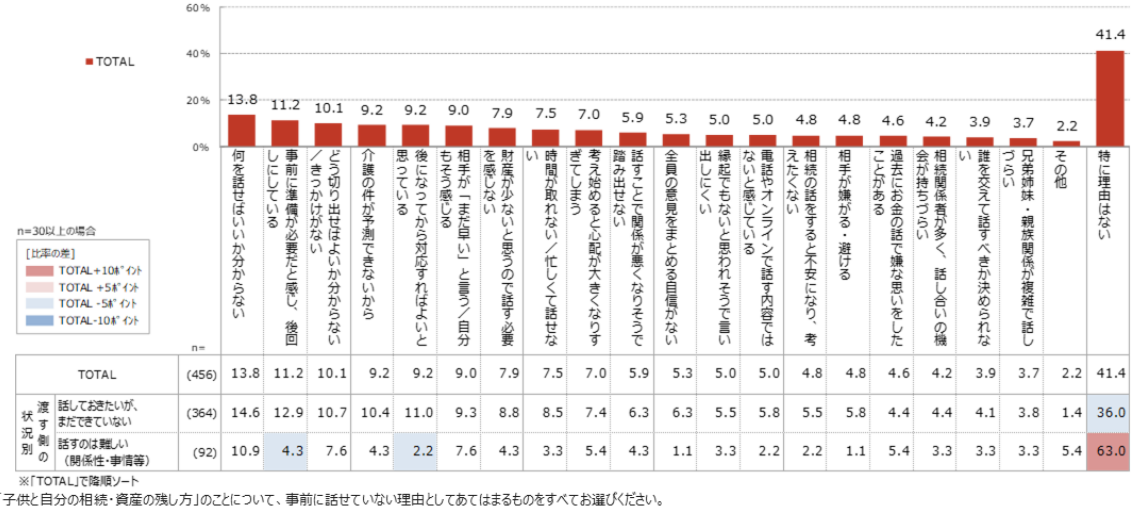
		n=	どう切り出せばよいか分からない／きっかけがない	何を話せばいいか分からない（論点が整理できていない）	時間が取れない／忙しくて話せない	縁起でもないと思われそうで言い出しにくい	話すことで関係が悪くなりそうで踏み出せない	考え始めると心配が大きくなりすぎてしまう	事前に準備（知識・資料）が必要だと感じ、後回しにしている	介護の件が予測できないから	相手が嫌がる・避ける	相手が「まだ早い」と言う／自分もそう感じる	兄弟姉妹・親族関係が複雑で話しづらい	後になってから対応すればよいと思っている	相続の話をすると不安になり、考えたくない	誰を交えて話すべきか決められない	財産が少ないと思うので話す必要を感じない	全員の意見をまとめる自信がない	過去にお金の話で嫌な思いをしたことがある	電話やオンラインで話す内容ではないと感じている	相続関係者が多く、話し合いの機会が持ちづらい	その他	特に理由はない
TOTAL		(639)	27.2	22.1	14.6	12.4	11.6	11.4	11.4	10.6	10.5	10.3	9.9	8.9	8.6	8.1	7.7	6.9	6.7	5.2	5.0	1.1	26.9
受け取る側の状況別	話しておきたいが、まだできていない	(506)	27.9	23.9	15.8	12.5	11.1	12.3	12.6	12.1	9.3	11.5	8.5	9.9	9.3	8.9	8.1	7.1	5.9	5.3	4.9	0.8	24.7
	話すのは難しい（関係性・事情等）	(133)	24.8	15.0	9.8	12.0	13.5	8.3	6.8	5.3	15.0	6.0	15.0	5.3	6.0	5.3	6.0	6.0	9.8	4.5	5.3	2.3	35.3

※「TOTAL」で降順ソート

Q25 親等と「親等の相続・財産の整理」のことについて、事前に話せていない理由としてあてはまるものをすべてお選びください。

一方で、渡す側の１位は「何を話せばいいか分からない」（13.8%）でした。この結果から、知識不足でも家族関係の悪さでもなく、双方が同じ理由で、相手の一言を待っていることが分かりました。

Q.【渡す側】子供（または相続させたい相手）と「自分の相続・資産の残し方」について、事前に話せていない理由としてあてはまるものをすべてお選びください。



		n=	何を話せばいいか分からない	事前に準備が必要だと感じ、後回しにしている	どう切り出せばよいか分からない／きっかけがない	介護の件が予測できないから	後になってから対応すればよいと思っている	相手が「まだ早い」と言う／自分もそう感じる	財産が少ないと思うので話す必要を感じない	時間が取れない／忙しくて話せない	考え始めると心配が大きくなりすぎてしまう	話すことで関係が悪くなりそうで踏み出せない	全員の意見をまとめる自信がない	縁起でもないと思われそうで言い出しにくい	電話やオンラインで話す内容ではないと感じている	相続の話をすると不安になり、考えたくない	相手が嫌がる・避ける	過去にお金の話で嫌な思いをしたことがある	相続関係者が多く、話し合いの機会が持ちづらい	誰を交えて話すべきか決められない	兄弟姉妹・親族関係が複雑で話しづらい	その他	特に理由はない
TOTAL		(456)	13.8	11.2	10.1	9.2	9.2	9.0	7.9	7.5	7.0	5.9	5.3	5.0	5.0	4.8	4.8	4.6	4.2	3.9	3.7	2.2	41.4
渡す側の状況別	話しておきたいが、まだできていない	(364)	14.6	12.9	10.7	10.4	11.0	9.3	8.8	8.5	7.4	6.3	6.3	5.5	5.8	5.5	5.8	4.4	4.4	4.1	3.8	1.4	36.0
	話すのは難しい（関係性・事情等）	(92)	10.9	4.3	7.6	4.3	2.2	7.6	4.3	3.3	5.4	4.3	1.1	3.3	2.2	2.2	1.1	5.4	3.3	3.3	3.3	5.4	63.0

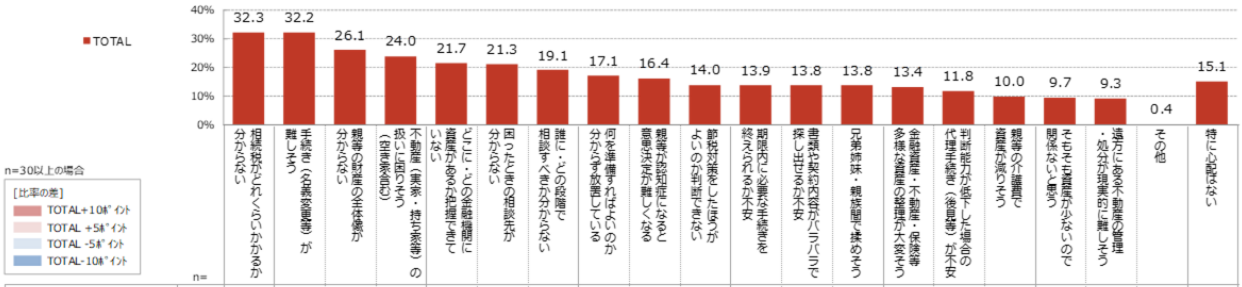
※「TOTAL」で降順ソート

Q25「子供と自分の相続・資産の残し方」のことについて、事前に話せていない理由としてあてはまるものをすべてお選びください。

3. 不安の正体は、金額ではなく、資産の「ありか」

今後、相続・資産を受け継ぐ予定の方に、相続にあたって心配なことをたずねると、上位には相続税（32.3%）・手続き（32.2%）に続いて「親等の財産の全体像が分からない」（26.1%）、「どこに・どの金融機関に資産があるか把握できていない」（21.7%）が並びます。いくら受け取れるかではなく、「相続税・手続き」と「何が、どこにあるのか分からないこと」そのものが不安の中心でした。これらの結果から、最初の会話で金額を聞く必要はないと考えられます。

Q.【受け取る側】今後、親等からの相続・資産を受け継ぐにあたって、あなたが心配なことをすべてお選びください。



		n=	相続税がどれくらいかかるか分からない	手続き（名義変更等）が難しそう	親等の財産の全体像が分からない	不動産（実家・持ち家等）の扱いに困りそう（空き家含む）	どこに・どの金融機関に資産があるか把握できていない	国うたんきの相談先が分からない	誰に・どの段階で相談すべきか分からない	何を準備すればよいのか分からず放置している	親等が認知症になると意思決定が難しくなる	節税対策をしたほうがよいのか判断できない	期限内に必要な手続きを終えられるか不安	書類や契約内容がバラバラで探し出せるか不安	兄弟姉妹・親族間で揉めそう	金融資産・不動産・保険等多様な資産の整理ができるか不安	判断能力が低下した場合の代理手続き（後見等）が不安	親等の介護費で資産が減りそう	そもそも資産が少ないので関係ないと思う	遠方にある不動産の管理・処分が現実的に難しそう	その他	特に心配ない
TOTAL		(1,258)	32.3	32.2	26.1	24.0	21.7	21.3	19.1	17.1	16.4	14.0	13.9	13.8	13.8	13.4	11.8	10.0	9.7	9.3	0.4	15.1
受け取る側の状況別	すでに具体的に話している	(120)	21.7	24.2	7.5	26.7	8.3	11.7	11.7	6.7	15.8	9.2	7.5	7.5	10.8	10.0	9.2	10.8	10.8	11.7	-	23.3
	話しておきたいが、まだできていない	(506)	39.1	37.4	32.0	31.0	28.5	24.5	21.9	20.2	20.9	16.8	18.6	19.2	16.2	17.2	15.6	11.9	9.1	13.0	0.8	7.1
	できれば話したいが、また時期ではない（子が幼い等）	(290)	35.5	33.8	28.3	19.7	22.1	24.1	19.3	15.2	15.9	17.6	12.4	13.1	10.3	13.8	11.0	9.3	8.3	8.6	-	11.7
	話す必要はあまり感じない／優先度が低い	(209)	20.1	23.9	17.2	13.4	11.5	14.8	13.9	14.4	8.1	8.1	9.6	5.3	10.5	7.2	6.2	6.7	13.4	1.9	0.5	29.2
	話すのは難しい（関係性・事情等）	(133)	27.8	29.3	29.3	21.1	23.3	21.8	22.6	23.3	13.5	9.0	12.0	14.3	19.5	10.5	9.8	9.0	8.3	6.0	-	23.3

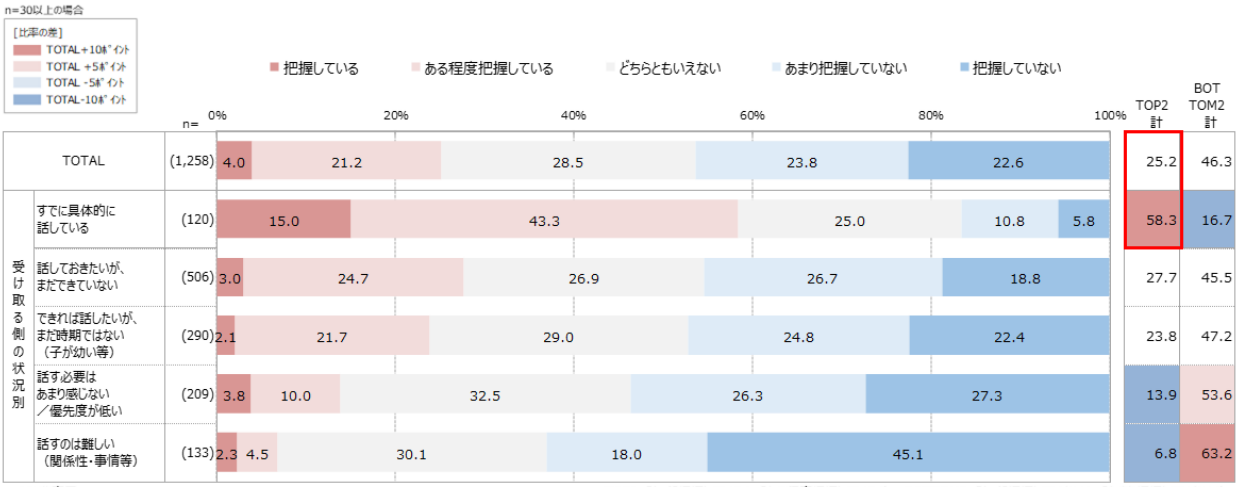
※「TOTAL」で降順ソート

Q18 今後、親等からの相続・資産を受け継ぐにあたって、あなたが心配なことをすべてお選びください。

4. 話し始めた家族は、ちゃんと前に進んでいる

今後、相続・資産を受け継ぐ予定の方のうち、すでに親と具体的に話している方に焦点を当てると、親の財産や重要情報（書類の所在、口座の有無等）について、58.3%が「把握している」・「ある程度把握している」と回答しています。これは、今後相続・資産を受け継ぐ予定の方全体（25.2%）と比較して2.3倍と、話し合いを始めることが財産把握という具体的な成果につながっていることが分かります。

Q.【受け取る側】親の財産や重要情報（書類の所在、口座の有無等）について、あなた自身はどの程度把握していますか。

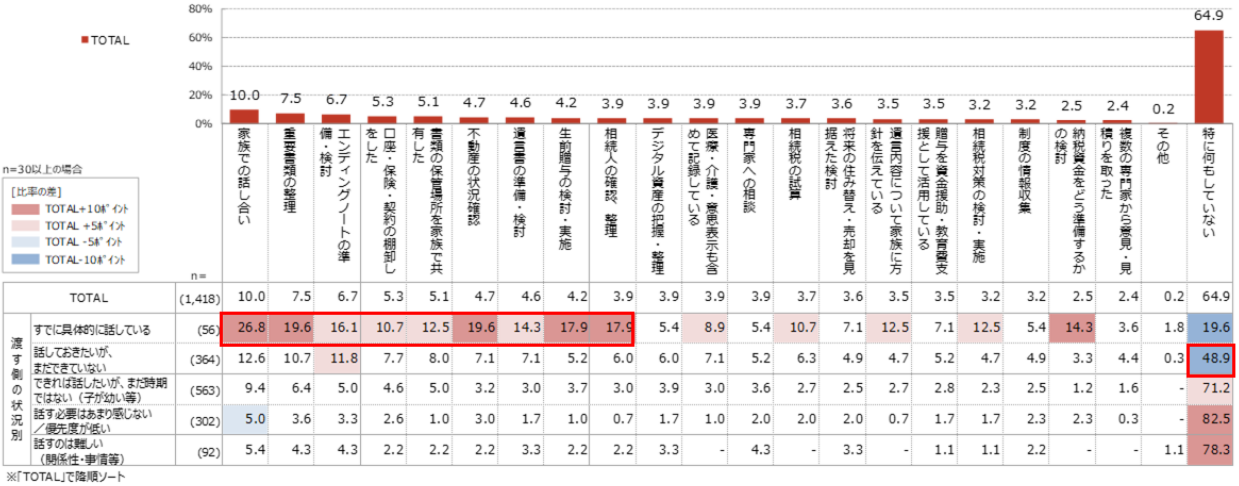


※0%非表示　※TOP2 計（「把握している」+「ある程度把握している」）　BOTTOM2 計（「把握していない」+「あまり把握していない」）

Q21 親の財産や重要情報（書類の所在、口座の有無等）について、あなた自身はどの程度把握していますか。

また、今後の相続・資産承継が発生予定または完了した方のうち、すでに子供と具体的に話している方は、重要書類の整理（19.6%）やエンディングノートの準備・検討（16.1%）など実務まで進んでいます。

Q.【渡す側】子供（または相続させたい相手）と「自分の相続・資産の残し方」について、これまでに実施したこと（または進めていること）をすべてお選びください。



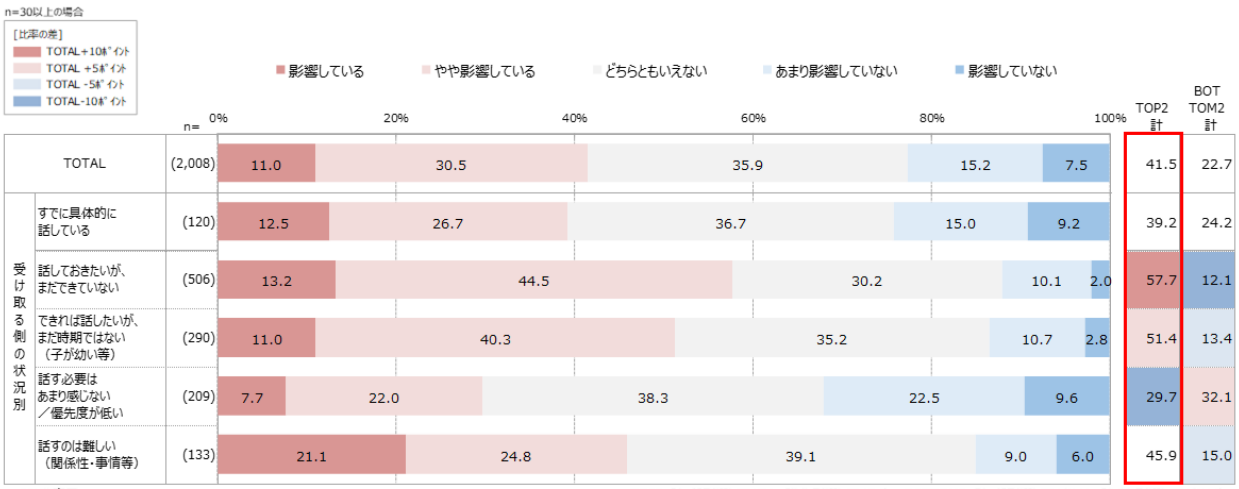
※「TOTAL」で降順ソート

Q24 【渡す側】「子供と自分の相続・資産の残し方」について、これまでに実施したこと（または進めていること）をすべてお選びください。

5. 相続の会話は、自分の老後の安心にもつながる

また、相続を受け取る側にとって、相続への心配が自分自身の老後不安にも影響していると回答した割合は 41.5%にのぼり、なかでも「話しておきたいが、まだできていない」層では 57.7%に達します。親との会話は親のためだけでなく、自分の将来の安心をつくる行動でもあることが分かりました。

Q.【受け取る側】相続に関する心配は、あなた自身の「老後資金への不安」にどの程度影響していると感じますか。



※0%非表示

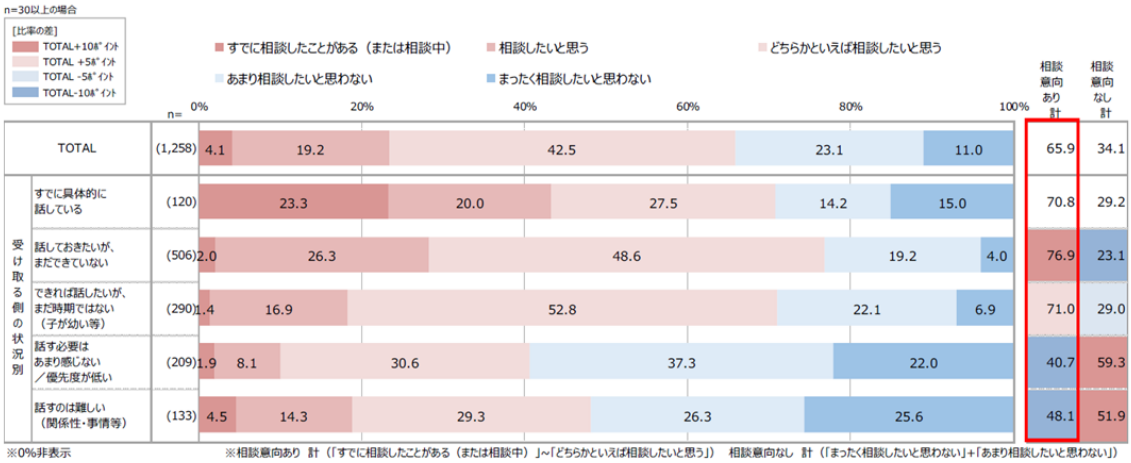
※TOP2 計（「影響している」+「やや影響している」） BOTTOM2 計（「影響していない」+「あまり影響していない」）

Q20 相続に関する心配は、あなた自身の「老後資金への不安」にどの程度影響していると感じますか。

6. 専門家に相談したい意欲は十分―あとは「誰に・何を」

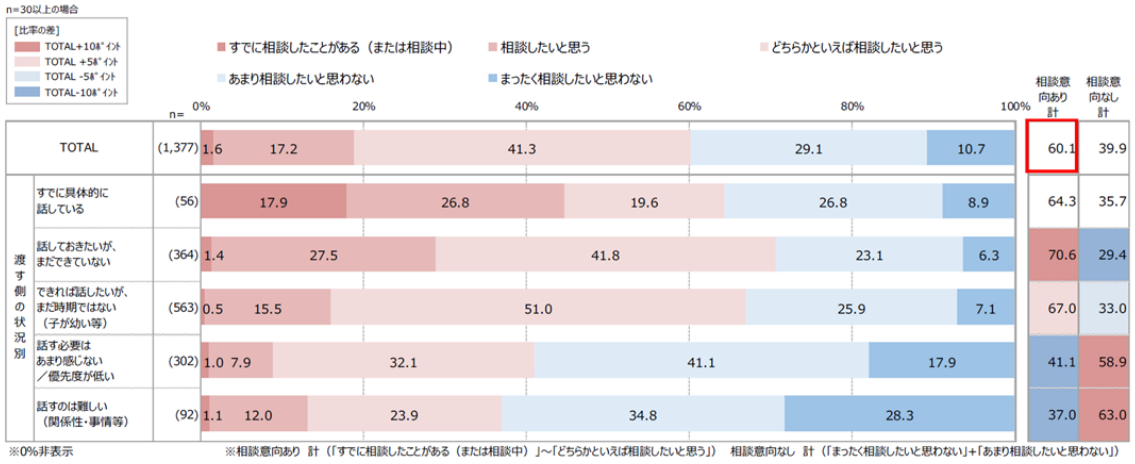
一方、相続の準備を進める上での課題も浮かび上がりました。**専門家に相談したい人は、受け取る側・渡す側の双方ともに 6～7 割に**のぼります。

Q.【受け取る側】「親等の相続・財産の整理」について、専門家（行政書士・司法書士・税理士・FP等）に相談したいと思いますか。



Q26 【受け取る側】「親等の相続・財産の整理」について専門家（行政書士・司法書士・税理士・FP等）に相談したいと思いますか。

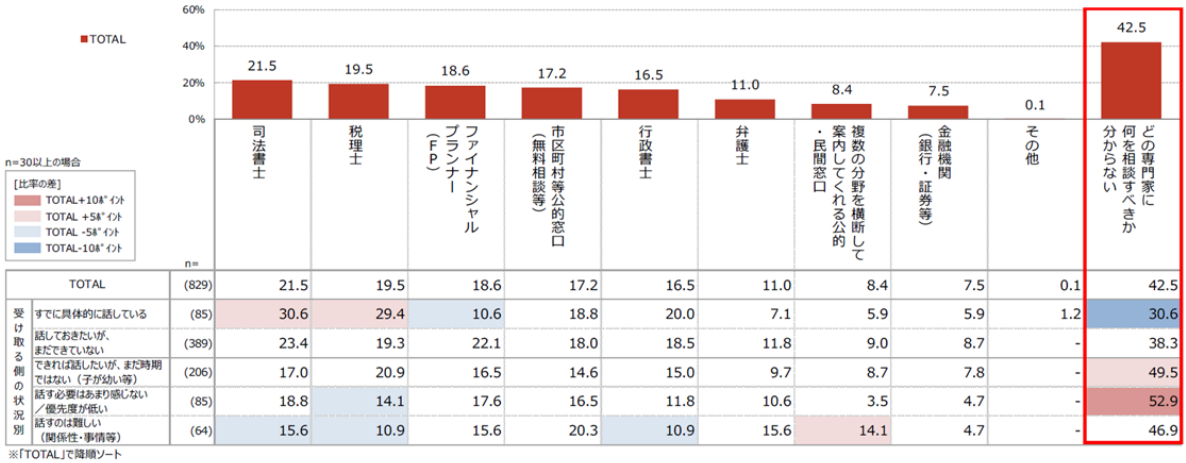
Q.【渡す側】「自分の相続・資産の残し方」について、専門家（行政書士・司法書士・税理士・FP等）に相談したいと思いますか。



Q26 【渡す側】「自分の相続・資産の残し方」について専門家（行政書士・司法書士・税理士・FP等）に相談したいと思いますか。

しかし、今後の相続・承継が発生予定の方のうち、相続について専門家への相談済みまたは相談意向がある層においても、「どの専門家に何を相談すべきか分からない」人は約 4 割にのぼります。相談したい気持ちはあっても、最初の一歩が見えていない実態が浮かび上がりました。

Q.【受け取る側】「親等の相続・財産の整理」について、専門家に相談するとしたら、どの専門家・窓口に相談したいですか。

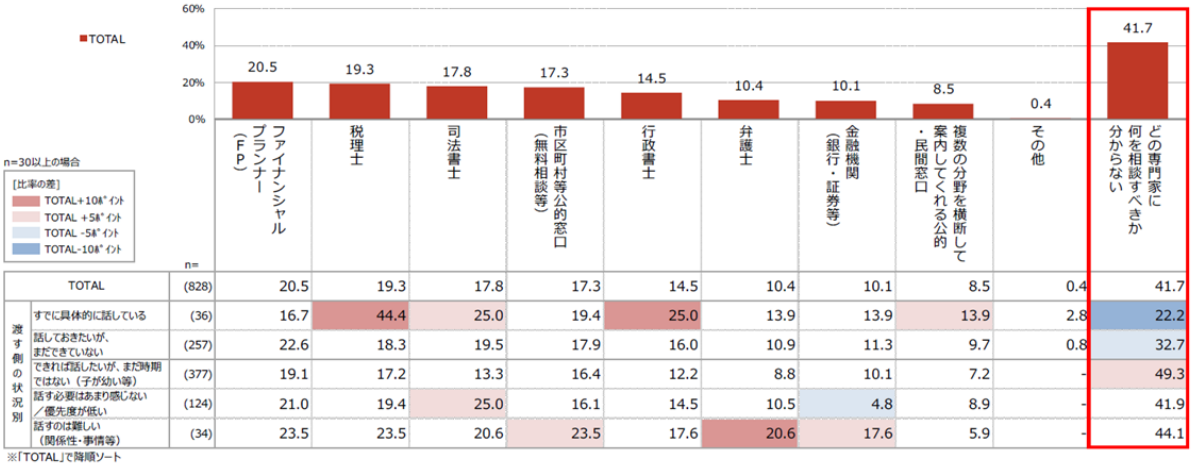


		n=	司法書士	税理士	ファイナンシャルプランナー（FP）	市区町村等公的窓口（無料相談等）	行政書士	弁護士	複数の分野を横断して案内してくれる公的・民間窓口	金融機関（銀行・証券等）	その他	どの専門家に何を相談すべきか分からない
TOTAL		(829)	21.5	19.5	18.6	17.2	16.5	11.0	8.4	7.5	0.1	42.5
受け取る側の状況別	すでに具体的に話している	(85)	30.6	29.4	10.6	18.8	20.0	7.1	5.9	5.9	1.2	30.6
	話しておきたいが、まだできていない	(389)	23.4	19.3	22.1	18.0	18.5	11.8	9.0	8.7	-	38.3
	できれば話したいが、まだ時期ではない（子が幼い等）	(206)	17.0	20.9	16.5	14.6	15.0	9.7	8.7	7.8	-	49.5
	話す必要はあまり感じない／優先度が低い	(85)	18.8	14.1	17.6	16.5	11.8	10.6	3.5	4.7	-	52.9
	話すのは難しい（関係性・事情等）	(64)	15.6	10.9	15.6	20.3	10.9	15.6	14.1	4.7	-	46.9

※「TOTAL」で降順ソート

Q27【受け取る側】「親等の相続・財産の整理」について、専門家に相談するとしたら、どの専門家・窓口に相談したいですか。

Q.【渡す側】「自分の相続・資産の残し方」について、専門家に相談するとしたら、どの専門家・窓口に相談したいですか。



		n=	ファイナンシャルプランナー（FP）	税理士	司法書士	市区町村等公的窓口（無料相談等）	行政書士	弁護士	金融機関（銀行・証券等）	複数の分野を横断して案内してくれる公的・民間窓口	その他	どの専門家に何を相談すべきか分からない
TOTAL		(828)	20.5	19.3	17.8	17.3	14.5	10.4	10.1	8.5	0.4	41.7
渡す側の状況別	すでに具体的に話している	(36)	16.7	44.4	25.0	19.4	25.0	13.9	13.9	13.9	2.8	22.2
	話しておきたいが、まだできていない	(257)	22.6	18.3	19.5	17.9	16.0	10.9	11.3	9.7	0.8	32.7
	できれば話したいが、まだ時期ではない（子が幼い等）	(377)	19.1	17.2	13.3	16.4	12.2	8.8	10.1	7.2	-	49.3
	話す必要はあまり感じない／優先度が低い	(124)	21.0	19.4	25.0	16.1	14.5	10.5	4.8	8.9	-	41.9
	話すのは難しい（関係性・事情等）	(34)	23.5	23.5	20.6	23.5	17.6	20.6	17.6	5.9	-	44.1

※「TOTAL」で降順ソート

Q27【渡す側】「自分の相続・資産の残し方」について、専門家に相談するとしたら、どの専門家・窓口に相談したいですか。

■「私たちのお金白書」について

全国約 2,000 名への「資産形成に関する消費者実態調査」をもとに、家族とお金の実態と「安心をつくる行動」をシリーズで伝えるレオス・キャピタルワークスの調査白書です。「話したいのに、話せない」―多くの世帯で生じているこの状況に、私たちは注目しました。不安の大きさではなく、安心をつくる行動にフォーカスし、家族やパートナーとお金を話すための「最初の一歩」を後押しします。

全調査レポートはこちら：https://www.rheos.jp/research/money-hakusho_vol1.pdf

＜ご注意＞
ニュースリリースの内容は開示時点における情報を基に作成しており、内容の正確性・完全性を保証するものではなく、また記載されている内容は予告なく変更される場合があります。投資信託は預金等や保険契約とは異なり金利や相場等の変動により、元本欠損が生じる可能性があります。投資信託毎にリスクや費用等は異なるため、ご購入の際は、事前に投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等の内容を十分にお読みください。

※レオス・キャピタルワークス株式会社は、2026 年 12 月 1 日付で「ＳＢＩレオス・キャピタルワークス株式会社」へ商号変更を予定しております。

＊＊＊＊【本件に関するお問い合わせ先】＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
ＳＢＩグローバルアセットマネジメント株式会社　管理本部　電話:03(6229)0812　ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：sbigam@sbiglobalam.co.jp
レオス・キャピタルワークス株式会社　経営企画部　電話:03(6266)0124
（金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 1151 号、加入協会：一般社団法人資産運用業協会会員）